

堀川高校の生徒が  
「読んでみたい本」  
「読ませたい本」



京都市下京図書館

下京図書館では、京都市立堀川高等学校と連携して、ティーンズ世代の読書活動を推進しています。

その連携事業の一環として、堀川高等学校の生徒の皆さんが、自身で読んでみたいと思った本や、誰かにオススメしたいと思った本をコメントとともに募り、多くの生徒さんたちからお声をいただきました。それをもとに、下京図書館でおすすめ本リスト「堀川高校の生徒が「読んでみたい本」「読ませたい本」」を作成しました。

第2弾「下京図書館が購入しました」編では、堀川高校の生徒さんたちのリクエストの声をもとに、下京図書館が選書・購入した図書をコメントともにご紹介します。購入した本を読んできた高校生たちの新たな感想も加えた図書リスト第2弾ができました。ぜひご覧ください。



リクエストで購入した本



堀川高校生徒に実施したリクエストアンケート「堀川高校生とつくる！下京図書館の本棚」(アンケート回答数：249枚)

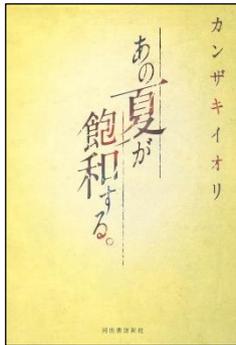


## 『頭のいい人が話す前に考えていること』

安達 裕哉／著      ダイヤモンド社

### 【この本を読んでみたいと思ったきっかけ】

本の表紙に「結果は話す前に決まっている。」と書かれてあり、この言葉が気になった。

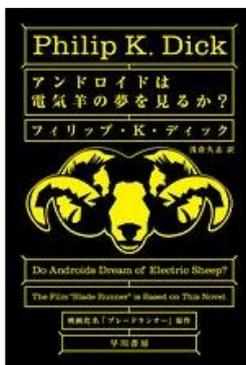


## 『あの夏が飽和する。』

カンザキ イオリ／著      河出書房新社

とある日の夏、千尋はいじめられていた少女、流花と逃避行の旅に出るが、流花は自殺してしまう。しかし13年後、千尋の前に流花にそっくりな瑠花が現れ—

人間が一人一人抱える悩み×社会問題＝運命の巡りあわせ。作者は作曲家でもあるアーティストなので、言葉遣いが斬新で新鮮でぐっとくる。



## 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』

フィリップ・K.ディック／著      浅倉 久志／訳      早川書房／ハヤカワ文庫

第三次世界大戦後、放射能灰に侵された地球で暮らすリックは、地位の象徴でもある「生きた動物」を手に入れるため、火星から逃亡してきた〈奴隷〉アンドロイドの首にかけられた莫大な懸賞金を狙い、決死の狩りを始める！リドリー・スコット 監督 映画『ブレードランナー』の原作が、今ここに。



## 『犬神家の一族』

横溝 正史／著      KADOKAWA／角川文庫

犬神家といえば“湖から突き出た死体の足”が有名ですが、まず推したいのは「斧・琴・菊」の見立て殺人であることです。より不気味な雰囲気にもまれてとても面白くなっています。また、助清や松子といった登場人物の表現が不気味なだけではない物語を一層深いものになっています。





## 『ウォームアップ微生物学』

中込 治／著 医学書院

医療系の学生にとって必須の病原微生物学の勉強だけれど、覚えることがたくさんあって大変そうなイメージ。そこで本格的に微生物学を学ぶ前にまずは微生物学の全体像と一番大事なトコロを大まかにつかみましょう。学生はもちろん、病原微生物についてきちんと知りたい一般読者の方にもおすすめの本。



## 『嘘の木』

フランシス・ハーディング／著 児玉 敦子／訳  
東京創元社／創元推理文庫

捏造の化石を作ったという噂がたてられたサンダリー博士が移住した島で謎の死を遂げる。それを疑問に思った娘のフェイスが原因を調べるも、次々と発覚する不可解な事実…。19世紀のイギリスを舞台としたミステリー小説



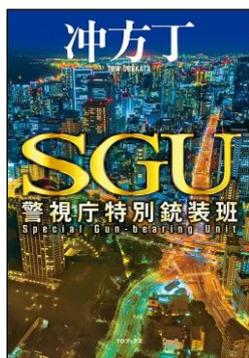
突拍子もない設定だけど、どこか同じくらいの年齢の主人公たちに感じるものがある。



## 『宇宙飛行士選抜試験 ファイナリストの消えない記憶』

内山 崇／著 SBクリエイティブ

宇宙飛行士になるためにどのような試験があるのかが細かく分かり、筆者の体験談から試験の過酷さや緊張感を想像することができる点がオススメ。



## 『SGU 警視庁特別銃装班』

冲方 丁／著 TOブックス

※「読んだことはないけど読んでみたいので、購入してほしい！」

図書として希望がありました。(コメントはなし)

下京図書館でも予約が多数入っていた人気の図書です。





## 『音楽と生命』

坂本 龍一／著

福岡 伸一／著

集英社

音楽家と生物学者の対談というのが面白かったです！普段とは違う視点で世界を見れるようになります。



## 『科学探偵シャーロック・ホームズ』

J.オブライエン／著

日暮 雅通／訳

東京化学同人

【この本を読みたいと思ったきっかけ】

「シャーロック・ホームズ」で使われている犯罪捜査の方法を通して犯罪捜査の歴史が学べたりすると、家族が紹介してくれた。



## 『火星無期懲役』

S.J.モーデン／著

金子 浩／訳

早川書房／ハヤカワ文庫 SF

最後まで展開が予測できないスリリングな本です。また、読んでいて想像力を必要とする場面もあり、想像力も向上することができる。



## 『神モチベーション』

星 渉／著

SBクリエイティブ

何をしようにもやる気が出ない、ネガティブな気持ちになってしまう人必見！！「ギャップ」を用いた誰でもできる長続きするモチベーションの在り方を伝授してくれます。さあ君も変わる時だ！！



## 『奇跡のバックホーム』

横田 慎太郎／著

幻冬舎／幻冬舎文庫



小さい頃から野球に情熱を注いでいた横田慎太郎は、2013年、阪神タイガースからドラフト指名を受け、プロ野球の門を叩く。プロ3年目、横田は開幕スタメンを勝ち取り、活躍が期待されるようになった。しかしプロ4年目、脳腫瘍が発覚してしまう。大手術の末、なんとか退院した横田だが、後遺症で視力が著しく低下したため横田は引退を決意する。そして、プロ最後の試合、横田に奇跡が起こる。

ある病気になった野球選手が、目も見えない中でセンターの守備につき、引退試合で素晴らしいレーザービームを放つまでの生活が詳しく描かれている。



## 『金の角持つ子どもたち』

藤岡 陽子／著

集英社／集英社文庫

中学受験の話だけど、いつ読んでもやる気が出る。



## 『紅蓮館の殺人』

阿津川 辰海／著

講談社／講談社文庫

ミステリー好きにはたまらない、様々なトリックが登場するところが、読んでいてとても楽しい。



下京図書館司書も読みました！

『嘘の木』（フランシス・ハーディング／著）

中心はミステリーでありながら、ファンタジー要素もあり、19世紀英国を舞台に女性の生きづらさを抱える主人公の奮闘あり…読み応え十分の作品でした！この作品をきっかけに、同じ著者の他の作品にも興味を持つようになりました。個人的にも注目している作家です。



『決定版・日本史』  
渡部 昇一／著 扶桑社

『決定版・日本史 人物編』  
渡部 昇一／著 扶桑社

語り口も優しく、どんどん進みます。現代日本人の太平洋戦争史観からの脱却が提唱されていたりと、とてもためになる本だと思います。



『子どもの難問 哲学者の先生、教えてください!』  
野矢 茂樹／編著 中央公論新社

「子どもにしか哲学はできない」この言葉は一見意味が分からなくても、共感することができるのではないのでしょうか。「死んだらどうなるの?」「自分らしいってどういうこと?」「うーん…」

自分が子どもの頃抱き、そして今、同じように尋ねられる正解の無い難問に皆さんは悩み悩まされてきたと思います。倫理的にはこう、教育的にはこう、でもこれというなら…?といった風に。この本では作者が沢山の哲学者の方々に疑問をぶつけ、それに対する幾つもの返事が紹介されています。「ああ、なるほど!」と感じるもの、「んん~??」とさらに分からなくなってしまうもの、色んな発見が詰まっていると思います。つい深く考えてしまう疑問を楽しんで下さい。

---

子どもが抱くような素朴な疑問、でも大人はすぐには答えられない疑問、そんな問いが載っています。筆者は「子どもに読んで欲しい。でも、大人になっても折に触れて繰り返し読んで欲しい」と語っています。この本では現代の様々な哲学者が問いに答えています。「大きな子ども」「小さな大人」そんな時期にいる皆さん、この本を読んでいろいろと考えてみませんか?なんとも答えにくい問いが載っているので、考えていて面白いですよ!



『この恋は世界でいちばん美しい雨』  
宇山 佳佑／著 集英社／集英社文庫

雨がきっかけで恋に落ちた誠と日菜。2人には夢があるが、ある雨の日に事故で瀕死の重症を負ってしまう。“案内人”と名乗る謎の人物たちの提案により、2人は夢を叶えるために余命を分け合って生き返ることになる。しかし、それが過酷で切ない日々の始まりとなる。

---

感動ストーリーで泣ける。



## 『今夜、世界からこの恋が消えても』

一条 岬／著 KADOKAWA／メディアワークス文庫



平凡な日々を送る僕がクラスメイトの日野真織に嘘の告白をする。彼女は“お互い本気で好きにならないこと”を条件に告白を受け入れるが、次第に恋が偽りでなくなっていく。そんなときに彼女が毎晩記憶を失ってしまう病気であると知り、1日限りの恋を積み重ねていく。しかし、突然終わりが告げられる。

寝るたびに1日にあったことを忘れてしまう彼女が登場する悲しい話だが、悲しい中でも人の温かさを感じる美しい話。



## 『サイレント・ウィッチ 沈黙の魔女の隠しごと 1～6』

『サイレント・ウィッチ 4-after 沈黙の魔女の事件簿』

依空 まつり／著 藤実 なんな／イラスト KADOKAWA



主人公だけでなく、その友人、先輩、先生…登場人物一人一人に個性があり、物語が進むにつれて関係も変わっていくところが面白いです。さらに、伏線がところどころにあり、物語の最後にすべての秘密がわかった時に鳥肌が立ちました。何度読んでも新たな発見があるので、視点を変えながら読むのがオススメです！

気弱な魔法使いのギャップがとてもよい。



## 『闇の魔法学校 死のエデュケーション Lesson1』

『闇の覚醒 死のエデュケーション Lesson2』

ナオミ・ノヴィク／著 井上 里／訳 静山社

昔から面白い作品が多いナオミ・ノヴィク氏の割と新作で、絶対に外さない質のいいファンタジー。

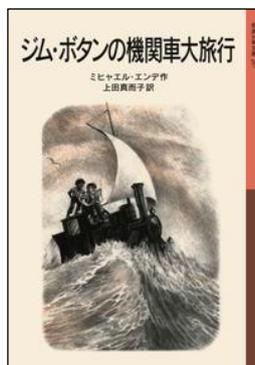




## 『自分を再生させるためのユング心理学入門』

山根 久美子／著 日本実業出版社

近年若者の間で人気のMBTIテスト。皆さんもやってみたことがあるのではないのでしょうか。建築家、提唱者、管理者…とタイプが分けられ「怖いぐらいに当たる…」と言われているこのタイプ診断は、この本で紹介されているユング心理学を元に作られています。「勝ち負け」「夢の答え」「コンプレックス」「異文化理解」「押し文化」など身近なテーマが多く載せられているため、気軽に肩の力を抜いて読むことができます。自分の個性を知ることの面白さを知ると共に日常のモヤモヤを解消するヒントになるのではないのでしょうか。



## 『ジム・ボタンの機関車大旅行』

ミハエル・エンデ／著 上田 真而子／訳  
岩波書店／岩波少年文庫

とある小さな島国、フクラムでのこと。黒人のジム・ボタンは、親友の機関士ルーカスと共に、エマという機関車に乗って冒険の旅に出かける。

---

王道のファンタジー。1つ1つの表現が豊かで、つい笑ってしまう冒険物語。



## 『十五の夏 上・下』

佐藤 優／著 幻冬舎／幻冬舎文庫

世界に目を向けさせてくれる佐藤優氏の自伝。





『13 階段』 高野 和明／著 文藝春秋／文春文庫

とある事件で死刑の判決が下された男には、犯行時刻当時の記憶がない。彼の脳内に蘇った「階段」の記憶をもとに、事件の真相に迫る刑務官・南郷。前科を負った青年・三上と共に調査を進める南郷は、囚人の命を救うことができるのか。処刑までに残された時間はもうわずかしかない。

死刑制度はなぜ存在するのか？罪とは何なのか？先の読めない展開にハラハラしつつ、そうした深い問いを考えさせられるところが面白い。心に残るラストです。



『15 歳のテロリスト』

松村 涼哉／著 KADOKAWA／メディアワークス文庫



突然の犯行予告のあとに起きた新宿駅爆破事件。容疑者はたった15歳の少年、渡辺篤人。少年犯罪を追う記者・安藤はかつて少年犯罪被害の会で彼と出会っていた。事件の裏に隠された真実に安藤が辿り着いたとき、15歳のテロリストの最後の闘いが始まろうとしていた。

少年法について考えられる。



『少女と少年と海の物語』

クリス・ヴィック／著 杉田 七重／訳  
木原 未沙紀／装画 藤田 知子／装幀 東京創元社

ファンタジーだけど、現実起こりそう。文字を読むと画面が見える！





## 『新版 シルマリルの物語』

J.R.R.トールキン／著 田中 明子／訳 評論社

神話世界最初の種族の誕生。世界の創造。繁栄、戦争、対立。これは物語ではない。言うなれば、或る世界の歴史書である。映画『指輪物語』を観たなら読みたくなるはず。



## 『親愛なるあなたへ』

カンザキ イオリ／著 河出書房新社

彼らにとっての「青春」は、苦悩であり、才能であり、爆弾。小説家を目指す少年と、音楽の道を目指す少女。彼らを通じて零される言葉と、歪な愛、故の罪。いつのまにか感情移入してしまう、奇妙なミステリー。

人の生と死、憧れと後悔、人の裏表を作者が美しく苦しく、斬新で新鮮な言葉遣いで描いている。



- 『深夜特急 1 香港・マカオ』
- 『深夜特急 2 マレー半島・シンガポール』
- 『深夜特急 3 インド・ネパール』
- 『深夜特急 4 シルクロード』
- 『深夜特急 5 トルコ・ギリシャ・地中海』
- 『深夜特急 6 南ヨーロッパ・ロンドン』

沢木 耕太郎／著 新潮社／新潮文庫

ノンフィクション作家の沢木耕太郎が、1970年代にインドのデリーからロンドンまでを乗り合いバスで旅をした時のことを書いた紀行文です。発行は古いですが、今でも「バックパッカーのバイブル」と称される不朽の名作です。

自分も旅をしているようで面白い。





『スイッチ 悪意の実験』  
潮谷 駿／著 講談社／講談社文庫

大学生の箱川小雪は、友人である桐山玲奈や三島大我とともに、日当1万円のアルバイトに参加することになった。アルバイトの内容は、あるパン屋を破滅させられるスイッチを持って1ヶ月間過ごすというもの。スイッチは押しても押さなくても良い。実験は参加者にどのような結果をもたらすのだろうか。

物語が題名からは想像のつかないような結末にたどり着いた点が面白い。



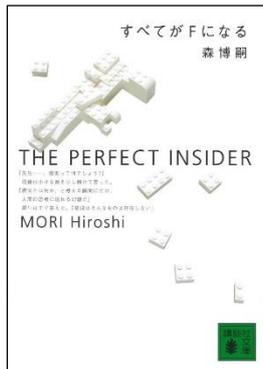
『図解よくわかる植物細胞工学』  
富永 基樹／著 日刊工業新聞社

中学生・高校生でもわかりやすい説明と図が載っていて理解しやすく、植物の生長について興味深いことがたくさん書いてある（陸上進出や、光合成植物が光を感じる仕組みなど）。



『ストロベリームーン』 芥川 なお／著 すばる舎

話題の純愛小説。まっすぐで優しい性格の「日向（ひなた）」と、天真爛漫だけれども秘密を抱える「萌（もえ）」が、ひと夏の恋を全力で楽しむ物語。タイトルの「ストロベリームーン」が、2人の絆を表す重要なシンボルとなり、感涙した。



『すべてがFになる』 森 博嗣／著 講談社／講談社文庫

孤島のハイテク研究所で、少女時代から完全に隔離された生活を送る天才工学博士・真賀田四季。彼女の部屋からウエディング・ドレスをまとい両手両足を切断された死体が現れた。偶然、島を訪れていたN大助教授・犀川創平と女子学生・西之園萌絵が、この不可思議な密室殺人に挑む。

1990年代に書かれた本であることを念頭に置きながら読んでほしい！





## 『大量に覚えて絶対忘れない「紙1枚」勉強法』

棚田 健太郎／著      ダイヤモンド社

「暗記さえできれば合格できるのに…」、「記憶力さえもっとよければなあ…」と思うことはありませんか？そんな人のために紹介したいのがこの「紙一枚勉強法」です。この勉強法のミソはとてもシンプル。「覚えたことを、忘れないように、忘れる一歩手前で思い出す」ということです。ぜひこの本を読んで、自身の学習に活かしていきましょう。



## 『樽とタタン』

中島 京子／著

新潮社／新潮文庫

### 【この本を読んでみたいと思ったきっかけ】

学校の先生がオススメしていて、あらすじを読んだら樽の中にいる女の子みたいな話で気になったから。



## 『月の落とし子』

穂波 了／著

早川書房／ハヤカワ文庫

栄光に満ちた人類のミッションーのはずだった。有人月探索計画「オリオン計画」。しかし月へ降り立った宇宙飛行士が吐血し急死する。探査船は制御を失い日本列島に致死性のウィルスと共に墜落した。極限状態に陥る中で人類は希望を見出すことができるのだろうか。



## 『トッカン 特別国税徴収官』

『トッカン vs 勤労商工会』

『トッカン the 3rd おばけなんてないさ』

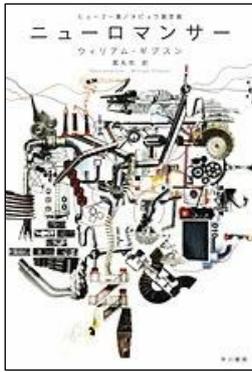
『トッカン 徴収ロワイヤル』

高殿 円／著

早川書房／ハヤカワ文庫

初めて知る職業で面白かった。





『ニューロマンサー』  
ウィリアム・ギブスン／著 黒丸 尚／訳  
早川書房／ハヤカワ文庫

【この本を読みたいと思ったきっかけ】  
家にあって、何となく気になった。



『ノベライズ 花束みたいな恋をした』  
坂元 裕二／原作・脚本 黒住 光／著 リトルモア

2021年1月29日に全国ロードショーされた映画『花束みたいな恋をした』のノベライズ小説。終電を逃した「山音麦」と「八谷絹」が偶然出会い、5年間の恋を繰り広げる。出来事が身近で、そのたびに二人の心情描写が丁寧だと感じられる。また、息ぴったりで運命を自然に感じさせる作者の展開の仕方にも感心させられた。



『向日葵の咲かない夏』  
道尾 秀介／著 新潮社／新潮文庫

誰がまともなのか。読み進める中でどんどんわからなくなっていく。じわじわと恐怖があがってくる。



『V.T.R.』 辻村 深月／著 講談社／講談社文庫

辻村深月の長編ミステリー『スロウハイツの神様』に登場するチヨダ・コーキのデビュー作。「今を切り取る作家」であるコウちゃんが描く「スロウハイツの神様」の世界のリアル。あなたはコウちゃんの世界から何を得るだろう。「スロウハイツの神様」の世界へようこそ。解説は「スロウハイツ」の家主・赤羽環。



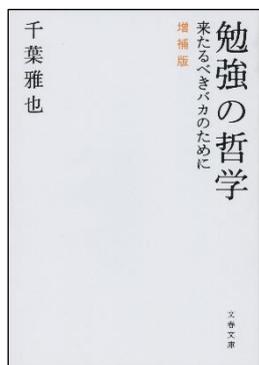


- 『ベルリン 1919 赤い水兵 上』
- 『ベルリン 1919 赤い水兵 下』
- 『ベルリン 1933 壁を背にして 上』
- 『ベルリン 1933 壁を背にして 下』
- 『ベルリン 1945 はじめての春 上』
- 『ベルリン 1946 はじめての春 下』

クラウス・コルドン／著 酒寄 進一／訳 岩波書店／岩波少年文庫

時は 1918 年冬。ドイツ帝国下のベルリンにて、第一次世界大戦が終結し、皇帝はいなくなった。新しい時代を夢見て戦う人々。しかし・・・

激動の時代の中で、人々がどのような暮らしをしていたのかがよくわかる作品です。



『勉強の哲学 来たるべきバカのために 増補版』

千葉 雅也／著 文藝春秋／文春文庫

言語の重要性がわかる。自分が生きている世界を俯瞰できる。



『僕たちは、宇宙のことぜんぜんわからない  
この世で一番おもしろい宇宙入門』

ジョージ・チャム／著 ダニエル・ホワイトソン／著  
水谷 淳／訳 ダイヤモンド社

世界一わかりやすい宇宙入門。面白くて理解しやすい。深い疑問につながる。



下京図書館司書も読みました！ 『ニューロマンサー』（ウィリアム・ギブスン／著）

大学生の時に読みました。「サイバーパンク」(\*) の代表作の一つともいわれている同著。難しいところもありましたが、とにかく世界観が独特でスゴイと感じた記憶があります。

※サイバーパンク：コンピューターネットワークによって管理された、暴力的で退廃した未来社会を描く SF 小説の潮流。（「Japan Knowledge Lib」より）



『ホワット・イフ？』

Q1 野球のボールを光速で投げたらどうなるか』

『ホワット・イフ？』

Q2 だんだん地球が大きくなったらどうなるか』

ランドール・マンロー／著 吉田 三知世／訳 早川書房／ハヤカワ文庫

『もっとホワット・イフ？』

地球の1日が1秒になったらどうなるか』

ランドール・マンロー／著 吉田 三知世／訳 早川書房

「ボールを高速で投げたらどうなるの？」や「海水がほとんどなくなったらどうなるの？」などの常識から逸脱したことが起こるとどうなるかを科学的に考えた結果を示した本。

『空想科学読本』よりもクレイジーでアホみたいな質問に著者が全力で考えた結果の本です。ポップな挿絵とともに文を読むので飽きないです！

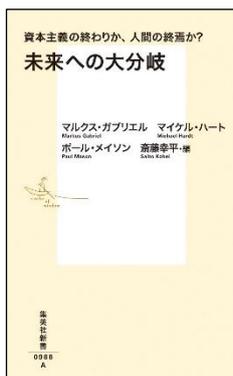


『また、同じ夢を見ていた』

住野 よる／著 双葉社／双葉文庫

伏線回収がきれい。

読み終わった後、また読み返したくなる。



『未来への大分岐』

資本主義の終わりか、人間の終焉か？』

マルクス・ガブリエル／著 マイケル・ハート／著

ポール・メイソン／著 斎藤 幸平／編著

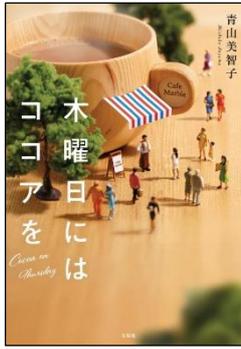
集英社／集英社新書

高校生になった今、文理選択や大学選択など、大切な分岐がたくさんある。ぜひ読むべき！



下京図書館司書も読みました！ 『月の落とし子』（穂波 了／著）

偉大なる有人月探査ミッションが一転、人類にとって未知なる致死性ウイルスが日本列島にもたらされ、未曾有の危機に陥る。次々と吐血して倒れる人々、バイオハザードの始まり…新型コロナを経験した今、この小説の怖さとリアルさが、より一層心に突き刺さる。第9回アガサ・クリスティー賞を受賞した注目作です。



## 『木曜日にはココアを』

青山 美智子／著 宝島社／宝島社文庫

第1回宮崎本大賞受賞作。喫茶店「マーブル・カフェ」を中心に広がる、12話の暖かい短編が、主人公を変えながらつながり、最後は最初の編にループするように完結する。それぞれの編が、様々な世代の人の身近に起きそうな出来事で、変化する主人公の心情描写が丁寧なので共感できる。

登場人物がそれぞれつながりを持っていて、いくつかにわかれている話がつながっていくところが面白い。



『鳥に単は似合わない』  
『黄金(きん)の鳥』  
『玉依姫』  
『楽園の鳥』  
『鳥の緑羽』

『鳥は主を選ばない』  
『空棺の鳥』  
『弥栄の鳥』  
『追憶の鳥』

阿部 智里／著 文藝春秋

どんでん返しがおもしろい。結末が読めないところがいい。



## 『陽気なギャングが地球を回す』

伊坂 幸太郎／著 祥伝社／祥伝社文庫

スピード感があって、飽きずに読める！伏線回収やどんでん返しがあって、読み終わった後の満足感がヤバイ！



## 『ラゲリより愛を込めて』

辺見 じゅん／原作 林 民夫／映画脚本 文藝春秋／文春文庫

※「読んだことはないけど読んでみたいので、購入してほしい！」

図書として希望がありました。(コメントはなし)

下京図書館でも予約が多数入っていた人気の図書です。





## 『ロスト・ケア』

葉真中 顕／著

光文社／光文社文庫

※「読んだことはないけど読んでみたいので、購入してほしい！」

図書として希望がありました。(コメントはなし)

下京図書館でも予約が多数入っていた人気の図書です。

